

〈 精密級電子水準器 〉

小型デジタル水準器

DL-m1

## レベルニック取扱説明書

 新潟精機株式会社

新潟精機のレベルニックをご採用いただきましてありがとうございます。

ご使用に際し、本器の性能を十分に発揮していただくために、本説明書を最後までお読みいただき、正しい使い方により、末長くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

### [ 目 次 ]

概 要	2
特 長	2
各部の名称	3
各部の機能	4
基準点移動による測定範囲の変化	6
使用方法	8
ゼロ点セット	10
水平出し	12
運搬の方法	14
注意事項	15
仕 様	16

## [ 概要 ]

本器はマイクロコンピュータを内蔵した、振り子型の高感度で且、精密級の電子水準器です。

傾斜角に応じて得られる振り子の微小変位を、電気信号として取り出し、傾斜を mm/m による勾配のデジタル表示により直読できます。

## [ 特長 ]

◎容量式センサーを使用しているため、極めて感度が高く安定しています。

◎気ほう管式の水準器に比べ広い範囲の測定ができます。  
( ±5 mm/m )

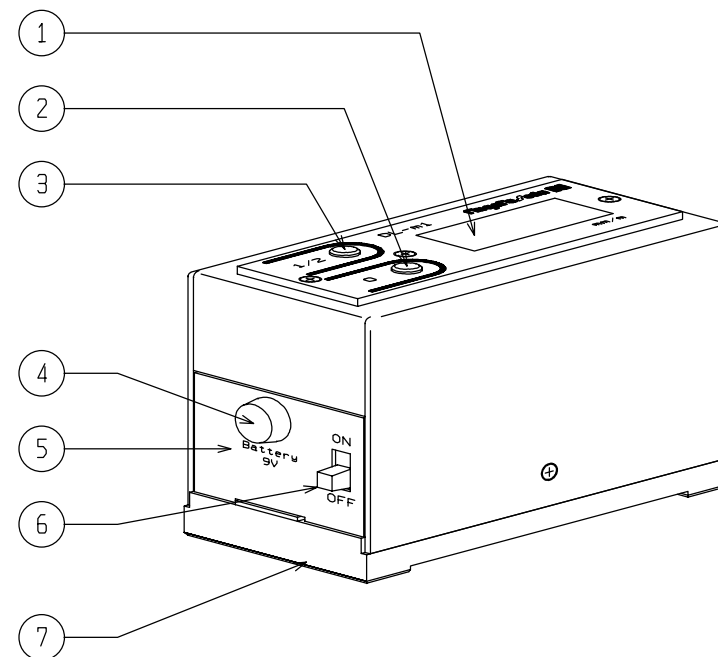
◎気ほう管式の水準器に比べ素早く応答します。  
( フルスケールの変位を与えた時 応答時間……約10秒 )

◎デジタル表示のため読み取りに熟練を必要としません。

◎ 0 コール、1/2 コールスイッチにより、基準を決める、表示を半分にするなどの作業がワンタッチでできます。

◎小型軽量で携帯に便利です。

## [ 各部の名称 ]



- (1) 表示窓
- (2) 0 コールスイッチ
- (3) 1/2 コールスイッチ
- (4) バッテリーケースツマミ
- (5) バッテリーケースカバー
- (6) 電源スイッチ
- (7) レベルベース

## [ 各部の機能 ]

### (1) 表示窓

傾斜、バッテリーの電圧低下を表示します。

#### 傾斜

表示値は mm/m の単位で表示します。

傾斜が測定範囲を越えたときはエラー表示をします。

プラス方向のエラーの場合には EEE、マイナス方向のエラーの場合には -EEE の表示をして、傾いて高くなっている側の E 表示が点滅します。

傾斜が測定範囲に戻れば通常動作に戻ります。

#### バッテリーの電圧低下

バッテリーの電圧が使用範囲よりも低下した場合、自動バッテリーチェック機能により表示値が点滅します。

表示値が点滅したときは、新しいバッテリーと交換してください。

### (2) 0 コールスイッチ

0 コールスイッチを押すと、表示はゼロになります。

スイッチ操作は約 1 秒くらい押している感じで行なってください。

(エラー表示のときは機能しません。)

### (3) 1/2 コールスイッチ

1/2 コールスイッチを押すと、表示はスイッチを押した時点の表示値の半分の値となります。

1/2 コールはスイッチをはなしたときに表示値が変わります。

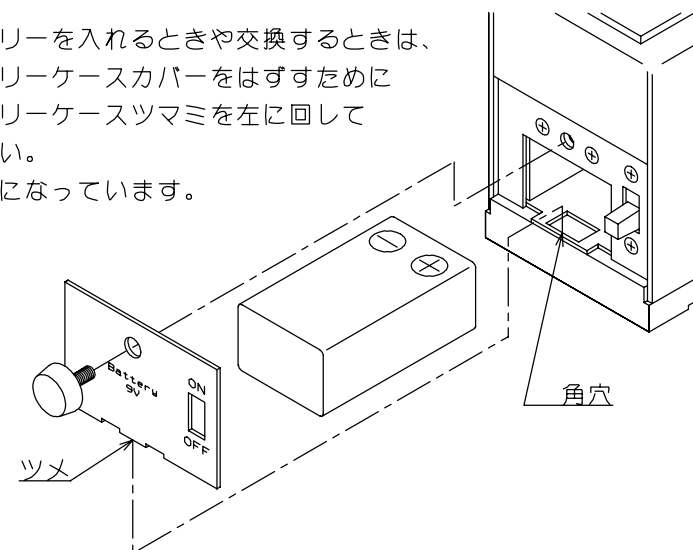
スイッチ操作は約 1 秒くらい押している感じで行なってください。

(エラー表示のときは機能しません。)

### (4) バッテリーケースツマミ

バッテリーを入れるときや交換するときは、バッテリーケースカバーをはずすためにバッテリーケースツマミを左に回してください。

ネジ式になっています。



### (5) バッテリーケースカバー

本体に取り付けるときは、バッテリーケースカバーのツメの部分本体側の角穴に引っかけるようにしてください。

### (6) 電源スイッチ

電源スイッチを ON にしてから、約 5 秒後に通常動作になります。

0 コールや 1/2 コールのスイッチ操作で設定された基準点は、電源スイッチを OFF にすると解除されます。

再度電源スイッチを ON にしたときは、基準点を再設定する必要があります。

### (7) レベルベース

長さ 100mm 幅 50mm です。

## [ 基準点移動による測定範囲の変化 ]

0 コール、 1/2 コールスイッチにより、任意の表示値のところまでゼロ表示させたり数値を半分にしたりして、表示の基準点を移動させることができます。

但し、測定範囲が表示値と本器内部に持っている内部数値（電源を入れたとき最初に表示される数値）により制限されます。

本器は水平のゼロ点を持っていません。

電源を入れたとき最初に表示される数値（内部数値）のゼロは、必ずしも水平のゼロ点とは一致しません。

測定に水平のゼロ点が必要なときは、毎回電源を入れたときに一度水平のゼロ点をセットしてやる必要があります。

この事は、毎回正しく調整された水平のゼロ点を基準として測定されて、ゼロ点の狂いによる誤差を無くするという利点となります。

水平のゼロ点をセットするために 0 コール、 1/2 コールの操作を行いません。

詳しくは、[ ゼロ点セット ] の項目をごらんください。

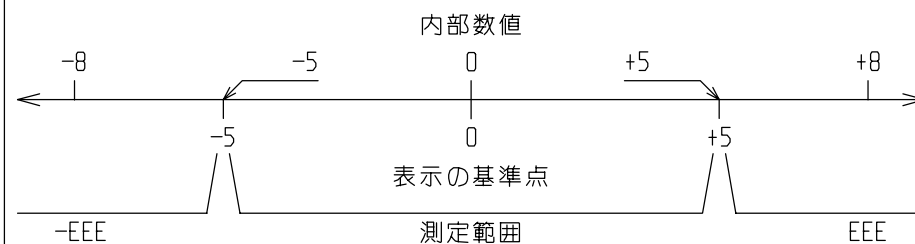
本器は水平のゼロ点を中心として  $\pm 5$  mm/m の測定範囲を確保するために内部数値で  $\pm 8$  mm/m を動作範囲としてあります。

表示値は  $\pm 5$  mm/m を表示範囲としてあります。

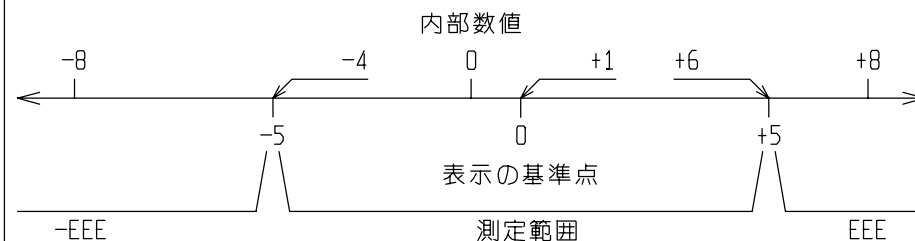
測定範囲はこの2つの条件により制限されます。

測定範囲を示す図において、上に表示されている数字が本器が内部に持っている内部数値で、下に表示されている数字が表示パネルに表示される数値です。

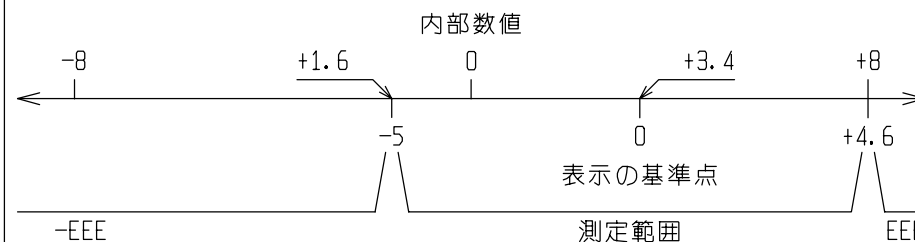
- ◎ 0 コール、 1/2 コールをしていない場合  
（表示の基準点が内部数値のゼロの点にいる）



- ◎ 0 コール、 1/2 コールで表示の基準点が +1 mm/m 移動した場合  
（例えば +1 mm/m で 0 コールを行なった、 +2 mm/m で 1/2 コールを行なったなど）



- ◎ 0 コール、 1/2 コールで表示の基準点が +3.4 mm/m 移動した場合  
（例えば +3.4 mm/m で 0 コールを行なったなど）



## [ 使用方法 ]

本器は精密測定器ですので、落下や何かにぶつけるような衝撃を与えないように十分注意してください。

使用する前に、リグロインやアルコールなどを湿らせてきれいなガラスペーパーや布などで、本器のベース測定面及び本器が使用される被測定物の測定面のゴミや油膜をきれいに拭き取ってください。

被測定物の測定面に本器を置いてください。

電源スイッチを ON にしてください。

内部回路が約 10 分で安定しますので、その後測定を開始してください。電源を入れてから最初の 10 分で、0.02 mm/m 前後の量のゼロ点移動が生じますが、この量が測定に差し支えなければすぐに測定を開始していただく構いません。

本器と被測定物との間には、温度差がないようにしてください。

暖かい所から寒い所への移動（またはその逆）などで、急な温度変化があると表示が安定しません。

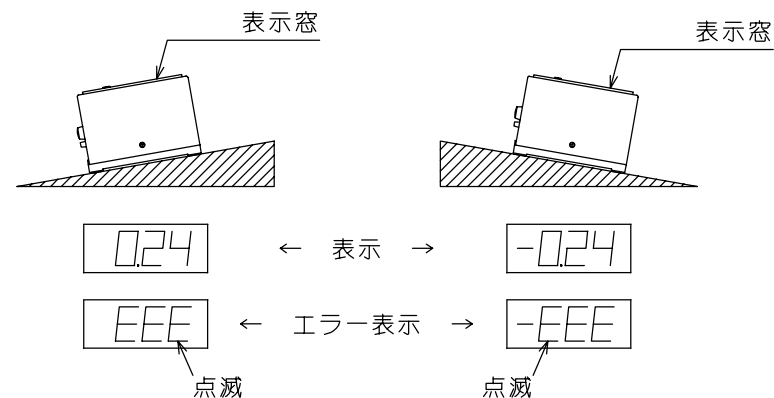
表示が安定するまでお待ちいただくか、事前に測定場所に 1 時間ほど置いておくようにしてください。

使用後は本器のベース測定面に防錆油を塗り、保管してください。

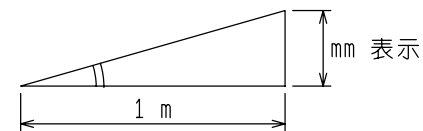
本器は表示窓側（正面から見て右側）が上るとプラスの数値で傾斜を表示し、下がるとマイナスの数値で傾斜を表示します。

測定範囲以上の傾斜があってエラー表示になっていても、マイナス側のエラーの場合はマイナス符号が表示されますので、どちら側に傾斜しているか確認できます。

さらに、傾いて高くなっている側の E 表示が点滅します。



本器の表示は、傾斜を 1メートル当りの高低差で表示する mm/m の単位です。



読み取り値から実際の測定ピッチ間の高低差を計算する場合は下記のようになります。

$$\text{測定ピッチ間の高低差} = \text{読み取り値} \times \frac{\text{測定ピッチ}}{1000} \text{ [mm]}$$

測定ピッチを 100 mm で測定した場合

$$\begin{aligned} \text{測定ピッチ間の高低差} &= \text{読み取り値} \times \frac{100}{1000} \text{ [mm]} \\ &= \text{読み取り値} \times 0.1 \text{ [mm]} \end{aligned}$$

## [ ゼロ点セット ]

本器は水平のゼロ点を持っていません。

電源を入れたとき最初に表示される数値（内部数値）のゼロは、必ずしも水平のゼロ点とは一致しません。

測定に水平のゼロ点が必要なときは、毎回電源を入れたときに一度水平のゼロ点をセットしてやる必要があります。

この事は、毎回正しく調整された水平のゼロ点を基準として測定されて、ゼロ点の狂いによる誤差を無くするという利点となります。

水平のゼロ点をセットするために 0 コール、 1/2 コールの操作を行ないます。

### A) 傾斜の比較測定をする場合

- (1) 本器を基準とする傾斜面の上に置きます。
  - (2) 表示が安定したら 0 コールを行ない表示をゼロにします。
- 以上で比較用のゼロ点がセットされました。

### B) 水平に調整された平面がある場合

- (1) 本器を水平に調整された平面の上に置きます。
  - (2) 表示が安定したら 0 コールを行ない表示をゼロにします。
- 以上で水平のゼロ点がセットされました。

### C) 平面が水平かどうかわからない場合

- (1) 本器を平面の上に置きます。
  - (2) 表示が安定したら 0 コールを行ない表示をゼロにします。
  - (3) 本器を 180° 回し、同じ場所に置き直します。
  - (4) 表示が安定したら 1/2 コールを行ない表示を半分にします。
- 以上で水平のゼロ点がセットされました。
- このときの表示値は、本器が置いてある平面の傾斜量になります。

基本的にはこの操作を1回行えば良いのですが、C) でロール方向（測定軸に対して直角方向）に傾斜がある場合、誤差を含む可能性がありますので、より正確な水平のゼロ点をセットする場合は、[ 水平出し ] の項目にある二方向の水平出しを行なってください。

## < 0 コール、 1/2 コールの役割 >

水準器は地球の重力に対して敏感に動作するので、次のような考え方で水平のゼロ点を知ることができます。

水平面に対して角度  $\theta$  の斜面があるとします。

その斜面の上に、おもりを糸でつった板を置きます。

すると、斜面から直角にのぼした線から、板のA側へ角度  $\theta$  だけおもりは傾きます。

板を 180° ひっくり返すと、斜面から直角にのぼした線から、板のB側へ角度  $\theta$  だけおもりは傾きます。

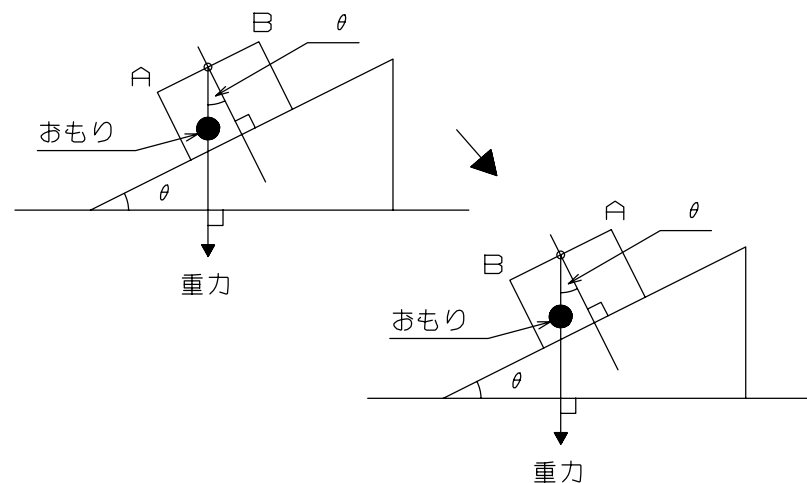
それならば、絶体的な基準（斜面から直角にのぼした線）がなくても、180° ひっくり返すことで板は  $2 \times \theta$  の角度は検知できます。

$2 \times \theta$  を半分にする事で  $\theta$  がわかりますから、水平面もわかります。

水平出しで、傾いた一方をゼロと仮定すると、180° ひっくり返したときには実際の傾きの2倍が表示されるのはこのためです。

2倍の表示を半分にすればその場所の傾きとなり、半分にした表示をゼロになるように斜面（被測定物）の傾きを調整してやれば、その面は水平になります。

逆に、絶体基準を持っているものは、もし何らかの原因でそれが狂ったとしても、わからないで使ってしまう可能性があります。

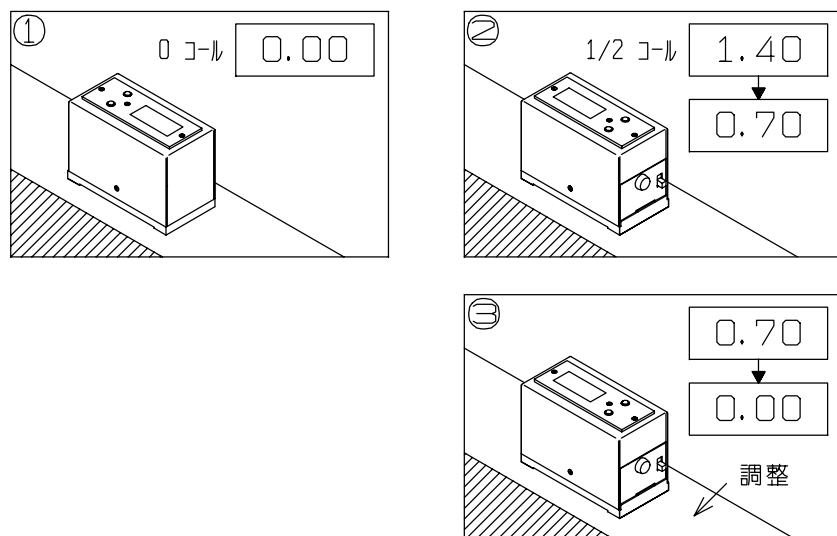


## [ 水平出し ]

### 一方向の水平出し

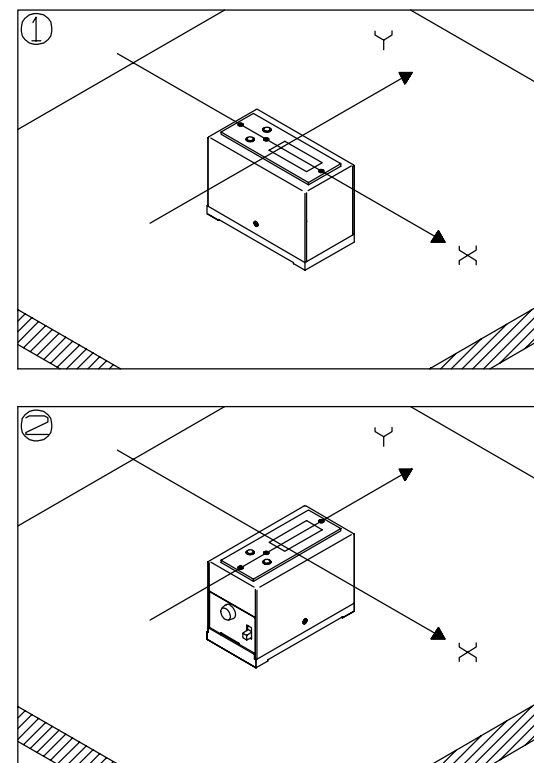
- (1) 被測定物の上に本器を置き、表示が安定したら 0 コールを行ない表示をゼロにします。
- (2) 本器を180°回し、同じ場所に置き直します。  
表示が安定したら 1/2 コールを行ない表示値を半分にします。
- (3) 本器の表示がゼロになるように被測定物の傾きを調整します。
- (4) 本器をもう一度180°回し、表示がゼロになるかを確認します。  
ゼロならば水平が出たことになります。  
ゼロでなければもう一度(1)~(4)を行ないます。

注) 0 コール方向(測定軸に対して直角方向)への傾きが大きい場合、表示に誤差が生じ作業がやりにくいことがありますので、そのときは0 コール方向も水平に近づけるように調整してください。



### 二方向の水平出し(X、Y方向)

- (1) "一方向の水平出し"の方法で、一方向(例えばX方向)の水平を出します。
- (2) 同じやり方で、もう一方向(Y方向)の水平を出します。
- (3) 一方向の水平を出すために被測定物を動かすと、もう一方向の水平がくずれる可能性があります。 (1)、(2)を数回繰り返すと次第に両方とも表示がゼロに収まってきます。  
常にゼロであれば二方向の水平が出たことになります。



## [ 運搬の方法 ]

本器は精密測定器ですので、持ち運びや輸送運搬のとき本体に、衝撃や過大な圧力及び振動が加わらないように注意してください。

### 人による運搬

本器は付属の収納ケースに入れて運搬してください。

本器を倒したり逆さにしたままでの運搬は避けてください。

自動車などで運搬する場合には、できるだけ振動を避け客席のシートの上に置いてください。

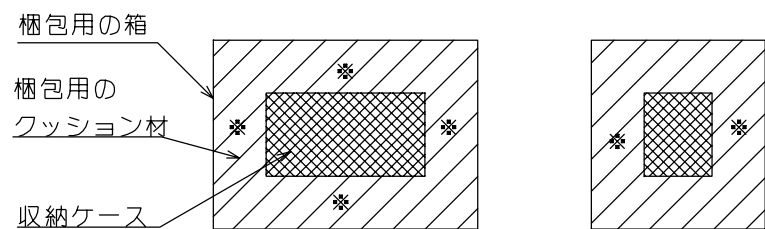
そのとき本器を倒したり逆さにしたままでの運搬は避けてください。

### トラック便等による輸送

本器を輸送する場合には、高さ・幅・長さ共に収納ケースの寸法より内寸法で約10cm大きな丈夫な箱を用意してください。

本器を収納ケースに入れ、用意した箱の中央部に梱包用のクッション材（紙をシュレッターなどで細く切って集めたものでも可）を使って、浮かせるような形で梱包してください。

梱包した箱には上下がわかるようにして、本器が倒されたり逆さにされされたまま輸送されないようにしてください。



※印の6面共約5cm箱から離れるようにする

## [ 注意事項 ]

本器は精密級の測定器ですので、作業中や持ち運びのときに、測定面や本体へ衝撃や過大な圧力を加えないように、取り扱いには十分注意をしてください。

レベルベースの底の測定面は機能上重要な部分ですので、防錆には十分注意をしてください。

使用後はゴミや汚れを除去し、レベルベースの底の測定面には防錆油を塗布してケースに収納してください。

長期間にわたり使用しない場合は、必ずバッテリーを取りはずしてください。

保存場所には直射日光の当たる場所や高温になる場所は避け、温度変化及び湿気の少ない所を選んでください。

使用箇所にバリ、ゴミなどがあると、測定面や被測定物にキズのつく原因になりますので、除去してください。

補助用具的な使い方をすると、キズや錆などの原因になりますので注意をしてください。

本器本来の使用目的以外には使用しないでください。



## [ 仕 様 ]

型 式	DL-m1
測定範囲	±5.00 mm/m
最小読み取り値	0.01 mm/m
使用温度範囲	0 ~ 40 °C
読み取り精度	[ 17 ~ 23 °C ]
(※1)	±0.02 mm/m または ±3 %rdg の大きい方 ( 0 ~ ±2 mm/m ) ±4 %rdg ( ±2 ~ ±5 mm/m ) [ 0 ~ 40 °C ] ±0.02 mm/m または ±5 %rdg の大きい方 ( 0 ~ ±2 mm/m ) ±6 %rdg ( ±2 ~ ±5 mm/m )
繰り返し精度	±0.01 mm/m 以内
電 源	9V 乾電池 (JIS S-006P) 1個
連続使用時間	マンガン乾電池 約45時間
(※2)	アルカリ乾電池 約90時間
外形寸法	105 (L) × 50 (W) × 73 (H) mm
ベース寸法	100 (L) × 50 (W) mm
重 量	0.88 kg
付属品	9V 乾電池 収納ケース 取扱説明書

(※1) %rdg は読み取り値に対してのパーセントです。

(※2) 使用条件により多少異なります。

新潟精機株式会社

〒955 新潟県三条市林町1丁目22番17号  
TEL 0256(33)5500